

全館空調「マッハシステム」強化

電子フィルター 家の空気清浄に

注文住宅のアイ・ホーム（宮崎市佐土原町）は、ウイルスなどの微粒子を除去する全館空調「スーパークリーン



「スーパークリーンマッハシステム」の特長である電子式集じんフィルター

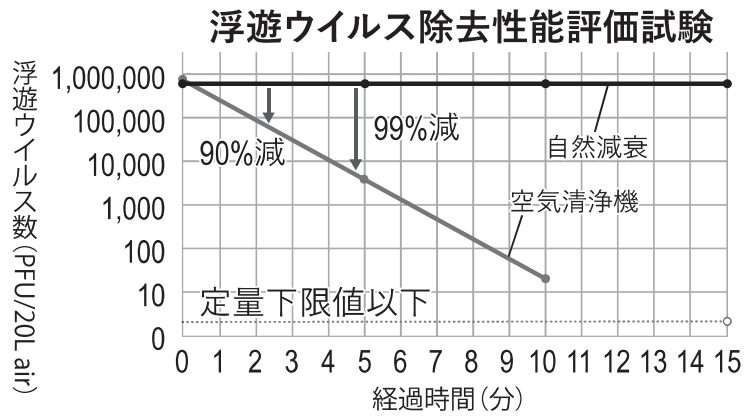
アイ・ホーム（宮崎市）

マッハシステム」を共同開発、販売を開始した。電子式集じんフィルターとの組み合わせで家全体の空気を清浄に保つ仕組みで、新型コロナウイルス対策としても注目されそうだ。

エアコン1台で住宅内の気温や湿度を24時間一定に保つことができる「マッハシステム」をさらに強化したのが「スーパークリーンマッハシステム」。住宅換気用フィルターなどを製造・販売するトルネックス（東京）と共同で2年前から開発を進めてい

東京の企業と開発

試験機関：（財）北里環境科学センター
試験報告書番号：北生発2020_0328号
試験方法：25㎡の試験空間において空気清浄機（風量：15㎡/min）によるウイルス数の変化を測定



た。

従来型との最大の違いは、トルネックスが手掛ける電子式集じんフィルターと組み合わせたこと。一般的なる過式フィルターとは異なり、金属板を帯電させることで粉じんを吸着。PM2.5や花粉の

ほか、ウイルスと同程度の0.08μmの微粒子も除去することができる。

北里環境科学センター（相模原市）の実験でも効果が確認されている。空気清浄機を動作しない場合、浮遊ウイルスは15分経過してもほとんど減少しなかったが、電子式集じんフィルターを搭載した空気清浄機を動作すると3分で90%以下、5分で99%以下に減少したという。

アイ・ホームによると、フィルターの捕集効率と処理風量で算出する「相当換気量」は毎時5〜10回程度で、病院の一般病室や集中治療室と同等の高いレベルを保つことが分かっている。

アイ・ホームの宜野座俊彦社長は「システムの完成が期せずしてコロナ禍と重なった。空気への関心が高まる中、効果を実感してもらえないのではないか」と話している。

（樋口由香）